

富津市献血推進協議会会議録

1 会議の名称	令和4年度富津市献血推進協議会
2 開催日時	令和4年7月27日（水） 午前10時30分～11時20分
3 開催場所	富津市役所 1階 大会議室
4 審議等事項	(1) 令和3年度富津市献血推進協議会事業実績報告書 (2) 令和4年度富津市献血推進協議会事業実施計画 (案) について
5 出席者名	献血推進協議会委員（11名） 高橋恭市、坂本秀則、三枝奈芳紀、横山龍巳、 橋本茂、溝口智、鈴木博、大野泰代、 山中有美、川口泰明、牧野安浩 千葉県赤十字血液センター（2名） 事業課長 田中邦明、事業課主事 森田拓人 事務局（3名） 健康づくり課 課長 地引憲太郎 健康づくり課 課長補佐 吉田智一 健康づくり課 主事 荒井脩杜
6 公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部非公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 非公開の理由	
8 傍聴人数	0人（定員10人）
9 所管課	健康福祉部健康づくり課 電話 0439-80-1268
10 会議録（発言の内容）	別紙のとおり

令和4年度富津市献血推進協議会会議録

発言者	発言内容
<p>地引課長 (事務局)</p>	<p>令和4年度富津市献血推進協議会の開催を宣言</p> <p>本日の出席委員でございますが15名中11名の出席をいただき、過半数に達しております。本協議会設置要綱第6条2項の規定により、本会議は成立していただきますことをご報告いたします。</p> <p>この会議は富津市公開情報条例第23条の規定により、会議を公開し、会議録を閲覧に供することとなっておりますので、傍聴人の受け入れと会議録の公表についてご理解の程をお願いいたします。</p> <p>本日の傍聴人はございません。</p> <p>なお、会議録作成のため録音をさせていただきますのでご了承ください。</p> <p>それでは次第2、委嘱状の交付をさせていただきます。</p> <p>本来であれば新たに委員を受けてくださった皆様へ、高橋市長からお一人ずつ委嘱状を交付させていただくところですが、新型コロナウイルス感染症予防対策としまして、鈴木委員、山中委員、牧野委員のお手元に委嘱状を交付させていただきました。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。</p> <p>続きまして次第3、本日は令和4年度となり、委員及び事務局職員の変更もございましたので、改めて委員の皆様及び職員のご紹介をさせていただきます。</p> <p>(委員及び事務局職員の紹介)</p> <p>続きまして、本協議会の会長であります、高橋市長からご挨拶を申し上げます。</p>
<p>高橋会長 (富津市長)</p>	<p>改めまして皆様こんにちは、ご紹介いただきました本協議会の会長を務めさせていただきます、市長の高橋でございます。</p> <p>会議にあたりましてご挨拶を申し上げたいと思います。本日は大変お忙しい中委員の皆様方には、本年度第一回目となります、富津市献血推進協議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、日頃より本協議会の事業推進にご指導ご協力いただいておりますこと心よりお礼を申し上げます。</p> <p>すでに皆様方には、申し上げるまでもないのですが、現代の医学の進歩というのは大変なものがございまして、それと同時に医療技術の高度化が進んでおります。</p> <p>しかしながら、それら患者さんに対しての治療また手術の時に、行われる輸血に関しては、多くの人々の全員による献血がなければ成り立たないことはすでにご案内の通りでございます。しかしながら、社会の少子高齢化また、同時に、献血可能な人口が減少してい</p>

る状況にありまして手術数の数が増えている等々の理由もあり血液が大変不足しているというとお聞きをしております。

後ほど、千葉県赤十字血液センター田中様から千葉県の献血状況のお話を頂きますけれども、ぜひ皆様方には改めて実情をご理解いただきまして今年度もこれまで同様またそれ以上に、お力添えをいただいて皆様の善意がしっかりと届けられるような体制を作っていくしたいと思いますのでご協力の程をよろしくお願いいたします。

そうした時に偶然だと思えますけど、今日朝、読売新聞の投稿欄に、献血についての投稿がありました。31歳の若者からの投稿だったと記憶していますが、「お母さんが何か社会の役に立ちたいという思いで長く献血を続けられている」という風を書いてありました。そして、「自分自身もそれに触発されて献血を始めたところ自分自身の健康に対する意識付け、またコレステロール等の数字がわかることで、そういうことに役立ってます」というような投稿でありました。

まさにこういう、人の役に立つだけではなくて、自分のためにも良いんだということも発信していくことができたならこれまで以上に献血をしていく方の人数確保につながっていくのかなという風に思い、興味深くその投稿を拝見したところであります。

本日会議の内容でありますけど、令和3年度の事業報告並びに、令和4年度の事業実施計画（案）を議題とさせていただきます。

また順序が逆になりましたけれど、令和3年度は本市の献血の目標数値を達成することができました。これもひとえに皆様方のお力添えの賜物だと思っております。

令和4年度のその達成を目標にして、努力してまいりたいと思えます。大変まとまりませんが、以上をもって会議冒頭のあいさつとさせていただきます。

地引課長
(事務局)

それではこれから議事に入らせてもらいます。議事進行につきましては、協議会設置揚網第6条により、会長である市長が会議の議長となることとなっておりますので、会長よろしく申し上げます。

高橋会長
(富津市長)

それでは、議長を務めさせていただきます。皆様のご協力をお願いいたします。また、発言の際は挙手をしていただいてから担当がマイクをご用意させていただきますので、マイクを持つての発言を重ねてお願いいたします。

初めに、会議録の署名委員の方の指名をいたします。署名委員は2名でございます。会長に一任ということでよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

高橋会長
(市長)

ありがとうございます。それでは会議録署名委員に溝口委員と牧野委員を指名させていただきます。よろしく申し上げます。

高橋会長
(富津市長)

それでは次第の5議事に入らせていただきます。(1) 令和3年度富津市献血推進協議会事業報告書について、事務局の説明を求めます。

吉田課長補佐
(事務局)

それでは、令和3年度富津市献血推進協議会事業次席報告書についてご説明いたします。

恐れ入りますが、令和4年度富津市献血推進協議会会議資料の、2ページ、「令和4年度富津市献血推進協議会事業実績報告書」をご覧ください。

上の表が令和3年度(昨年度)の実績、下の表は参考として、おとし、令和2年度の実績を記載しております。いずれも採血者の実績数です。

令和3年度に採決された人数は、400ml献血は、1,059人で、県目標の約196%、市目標の108%の達成率でありました。

また、200ml献血は、12人で県目標の約60%。市目標の約60%でありました。

合計として、1,071人の方々に採血いただき、県目標の約191%、市目標の約107%となり、県目標数は大幅に達成し、市目標の達成いたしました。なお、400ml献血は全体の約99%、200ml献血は全体の約1%でございます。

次に3ページをご覧ください。「令和3年度献血実施結果報告書」になります。

令和3年度に実施しました献血を時系列順に並べ、献血会場ごとの採血状況でございます。

「イオンモール富津」をはじめ、一年間に延べ25会場を実施し、表の一番下に記載となりますが、合計で1,214人が受け付けましたが、当日の体調などから献血の基準に達しないため、143名が実施できませんでした。そのため、献血は1,071名の方々のご協力をいただきました。

なお、例年、受付をされても基準に達せず献血ができない方が、10%から15%程いらっしゃいます。

次に4ページをご覧ください。

「令和3年度会場別献血実施者数内訳」になります。こちらは、会場別、毎月献血実績者数をまとめた表となります。

令和3年度については、9会場にご協力いただいております。

この表から、一般の方も対象とした、1番「イオンモール富津」と7番「富津市役所」。さらに4番、5番の「日本製鉄株式会社技術開発本部」での献血者数が多いことが確認できます。

以上で「令和3年度富津市献血推進協議会実績報告書」についての説明を終わります。

高橋会長
(富津市長)

説明が終わりましたが、ご質疑等ございましたらお願いします。

<p>(各委員)</p>	<p>(なし)</p>
<p>高橋会長 (富津市長)</p>	<p>ご質疑も無いようなので、令和3年度富津市献血推進協議会事業実績報告についてはご承諾いただきたいと思います。 それでは次に移ります。</p> <p>(2)の令和4年度富津市献血推進協議会事業実施計画(案)について、事務局の説明を求めます。</p>
<p>吉田課長補佐 (事務局)</p>	<p>それでは、令和4年度富津市献血推進協議会事業実施計画(案)についてご説明いたします。 恐れ入りますが、会議資料の5ページをご覧ください。 令和4年度の献血目標となります。 県が示した千葉県献血推進計画における富津市の令和4年度の献血目標は、400ml献血が471人、200ml献血が12人、合計で483人でございます。 また、市の目標は、前年度実績を目標に400ml献血、1,190人、200ml献血、12人、合計で1,202人を令和4年度の献血目標として取り組んでまいります。 次に6ページをご覧ください。 「令和4年度献血実施計画」になります。 月毎、会場毎の実施計画でございます。 こちらは、昨年度の実績を基に計画したものです。 この中に記載はありませんが、新たな会場など、千葉県赤十字血液センター様と協力し、検討していきたいと考えております。 以上で「令和4年度富津市献血推進協議会事業実施計画(案)」についての説明を終わります。</p>
<p>高橋会長 (富津市長)</p>	<p>それでは、ご質疑等ございましたらお願いをいたします。</p>
<p>三枝委員 (君津木更津医師会)</p>	<p>君津木更津医師会の三枝です。質疑と言うわけではないのですが、今わたくし、この献血推進協議会の中においてどちらかという血液をいただく方の立場で出席させていただいていると思います。富津市の献血の状況、県の目標も市の目標も両方まとめて素晴らしいと思います。市長様もお話しされましたけど血液というものはいまだに人工的にはどうしても作れないものでして、やはり一般の方々の献血に頼るしかございません。医療機関としても、できるだけ大事に使っていくように心がけておりますので、また今後ともぜひよろしくお願ひしたいと思います。</p>
<p>高橋会長 (富津市長)</p>	<p>私の方から意見を。先ほど市民の皆さんも受けられるということで、イオンモール様と市役所の会場の説明がありました。これらは事前に日程について、発信はどの程度されているのでしょうか。</p>

吉田課長補佐 (事務局)	<p>まず、富津市の広報誌と、安全安心メール、市のホームページでご案内をしております。市のホームページでは、年間の予定という形で、年度当初に載せさせていただいております。広報とメールの方につきましては、その月の月初にご案内する形と、あと当日に安全安心メールで、広く周知をさせていただいているところでございます。</p>
高橋会長 (富津市長)	<p>ぜひ、当日の発信というのは非常に重要な部分だと思いますので、今年度もよろしくお願いいたします。</p>
川口委員 (富津市地区区長会)	<p>質問なのですが、献血の実施月と間隔というのはどのように決めているのですか。私自身400mlをやっているのですが、400mlだと男性だと、12週ですか。予定表を見ながら次いつどこかなと探すのですが、そういうのは次の献血を見据えて作っているのか、献血が足りない月とかをターゲットに決めているのですか。</p>
吉田補佐 (事務局)	<p>市役所の会場の方につきましては、川口委員のお話のあった通り、四か月毎に接種ができるような日程を組んでおります。また、イオンモール富津の方では、月を複数並べた中で、お受けできるような体制を取っているという風に理解をしております。もし、赤十字社様の方から補足があればお願いします。</p>
田中事業課長 (赤十字血液センター)	<p>血液センター事業課長の田中でございます。まず、献血の日程とは、年に男性の場合ですと400mlをお願いした場合、男性は3回、女性は2回という風になっているのですが、おおよそ次の献血の時には、前回お願いした中で、お願いできる日程を開けて計画をさせていただいているのですが、会場によっては、年間に3回以上、4回5回とお願いする場合もございますので、そうなっているところは、なるべく均等に月でなるようにさせていただくよう計画をしておりますので、少なくとも男性の方は、次の献血がお願いできるような形、女性につきましては、年に2回しかお願いできませんので、どこか一回お休みしていただければ、次の献血にはつながるような形には日程には原則としてさせていただいているところですが、ただし今はコロナの影響もございまして、なかなか献血の計画自体がうまくいかなかったり、急に血液を皆様にお願ひしないといけないという時にはですね、申し訳ないのですが、臨時という形で、バスを配車させていただくこともあります。簡単ですが以上になります。</p>
川口委員 (富津地区区長会)	<p>私の場合には計画的に次どこにしようかなと決めてますので、計画的にやっていただけるとすごくありがたいと思います。</p>

<p>橋本委員 (日本製鉄株式会社 技術開発本部)</p>	<p>日本製鉄、橋本です。献血会場に来ていただいて、川口委員が言った通り、定期的にそのタイミングで来ていただいているので非常に楽なのですが、当日行ったときに何型が足りないよという掲示があるのですが、前日以前を目途にいただいた方がいいような気がします。日にちをセットして今週会場に行きますのでお願いします、というタイミングで「何型が不足しているので重点的にお願いします」という社内の掲示とホームページで案内できますので、ご相談できたらなと思っております。ぜひ、お願いします。</p>
<p>田中事業課長 (赤十字血液センター)</p>	<p>お願いする献血の日程のところの血液の状況を事前にご案内させていただいて、皆様にもうまく起案していただければと思いますので、よろしくお願いたします。</p>
<p>高橋会長 (富津市長)</p>	<p>他にご質疑も無いようなので、令和4年度献血推進協議会事業計画(案)について、承諾いただきたいと思っております。</p>
<p>(各委員)</p>	<p>(承諾)</p>
<p>高橋会長 (富津市長)</p>	<p>以上で本日の議事はすべて終了いたしました。議長の職を解かせていただきます。 ご協力ありがとうございました。</p>
<p>地引課長 (事務局)</p>	<p>続きまして、次第の6その他になります。千葉県の献血状況につきまして、千葉県赤十字血液センター千葉港事業所事業課長の田中様から、ご説明いただきます。よろしくお願いたします。</p>
<p>田中事業課長 (赤十字血液センター)</p>	<p>では、改めましていつもお世話になっております、千葉県赤十字血液センター千葉港事業所の田中邦明と申します。 皆様方におかれましては、献血事業の推進におかれまして多大なるお力をいただきまして本当にありがとうございます。また今回このような場所を設けていただいて、大変ありがとうございます。 早速ですけれども、千葉県の献血の状況になりますと、まずは何といたっても、コロナウイルスの影響というものが3年くらい続いておまして、皆様大変いろんな面でご苦労はされていると思っておりますけれども、コロナウイルスの感染当初、何がいけないかというところでは外出を控えましょうということで皆様に呼びかけがありました。 あとは人が集まってはいけないという形となりまして、そこが、ご存じの通り献血というのは、人に外出していただいておりますので、当初は献血の方は、血液の確保に苦労したところがございます。皆様方も同じような状況にあったかと思っておりますけれども、特に献血は団体様を頼りに、お願いしているところも多かったですので学校様、あるいは企業様、どうしても、企業の中で感染者</p>

出さないように、皆様対策をしていた中で、部外者が入れないとか、同じ会社の中でも皆様一か所に集まりたくないということで、献血のキャンセルが相次いだというところでございます。

一方そんな中で、血液の需要というのは、令和元年度、2年度、3年度、千葉県の中では増えていく中で、何とか患者様が扱いになれる分は確保しないという中で、そうなると、私たちが相談していただくところが行政となるのですが、実は行政の方々が、献血の担当とコロナ対策の窓口というのがほぼ同じ方々になってまして、なかなか私共も皆様コロナ対応していく中で、私共の方から、市役所の献血の回数を増やしてくれないかとか、そういう調整も無理をお願いして、何とか献血の実施する場所を見つけていただきながら、ここまで何とかやってこれたということでございますので、行政をはじめ皆様には感謝を申し上げます。

今のところコロナの方は7波ということで、患者さんも増えてきている中で、今年度に入ってから、献血の状況はだいぶ上向いておりまして、私共の方も4月から7月にかけては年間の計画の通りでのご協力をいただいているところでございます。献血状況詳しいところでですね、こちらの青い印刷物ですけれども、令和3年度につきましては、医療機関様にお届けした血液が、811,015単位ということで、こちらが200ml献血が一単位となっております。簡単に言うと、811,015人分お届けしたという形になります。一方、献血をいただいた方は6か所の10台の献血バスで延べ230,492名の方に協力をいただいております。こちらご協力いただいた人数とお届けした81万という数字には乖離がございますけど、実際献血は400mlであれば、お一人からお二人分。成分献血であれば、10単位やあるいは20単位分ご協力いただけますので、そういうものを踏まえますと、このような数値となります。

真ん中の棒グラフを見ていただくと、主に献血バスで集めさせて頂いていてますのは、赤血球製剤ということで左側のものなんですけど、ご覧いただけます通り、令和元年度、2年度、3年度、供給計画を上回る形で推移しているところでございます。こちらは、それだけ血液が必要だったということですが、当初はコロナの中で、なかなか医療機関様もコロナ対応で数値は滞ってしまうかと思ったのですが、千葉県の場合はそういった影響はなく、輸血医療に関しては、コロナの影響を受けず、行われていたのではないかと推測されます。献血状況と供給状況というのは下にございますけれども、献血状況の400ml献血が150,863人、200ml献血が5,693人、成分献血が50,686人という内訳でご協力いただいたというところでございます。200ml献血に関しては、予定より1,113程少なくなっておりますけれども、こちらの方は医療機関様の方で、血液のオーダーが、400ml献血を希望されておまして、今ほとんど、99%が400ml献血のご希望がございますので、それに合わせて200ml献血の方はセーブさせていただいている形となっております。一番下の年代別献血者状況を見てい

ただきますと、10代20代の方が減少傾向になっております。実際の人口の方が10代20代は減ってきているので、そのグラフと比較した場合どうかというところはございますけど、それにしても、社会の献血を担う方々に対する、広報活動等は、今後も推進していかなければと思います。

現実としましては、献血はほとんど40代以上の方が支えていただいて、特に50から69歳までの方の伸びが大きいとなっております。しかしながら、献血は69歳で卒業されてしまいますので、将来の血液確保には、30代以下の方々への広報活動は必須ということで考えております。裏面につきましては、令和4年度の計画等が書いておりますので、後ほどご覧いただければと思います。供給計画、採血計画につきましては、令和3年度に若干上乘せした形となっております。また、裏面中段の円グラフですけど、どんな患者さんが献血を必要かを表した図でして、一番上のがんの患者さんが、36.4%。次に、白血病などの造血器官等の病気の方でございまして、こちらが19.7%。合わせますと5割を超える方々が、がん、あるいは白血病の患者さんに使っているとなります。こちらは、輸血のイメージとは一般的には大手術とか、大けがの時に必要なのかなと思われる方もいらっしゃると思うのですが、実は抗がん剤治療をされている間は、血液とか髪の毛が作れなくなってしまうので、そういった方々に輸血をして、輸血療法ということで、血液を作れなくなった細胞の補充ということで血液が必要となっております。

こういった方々の一回に使う血液の量は少ないのですが、治療が半年続けば、その間はずっと必要となりまして、今、日本人は生涯で二人に一人はがんになると言われておりまして、輸血についてもそのような形で使う可能性があるということで輸血の必要性というのは今後も高まっていくのではないかと思います。

もう一枚の資料の方をご覧にいただきたいのですが、こちらは赤血球製剤の確保状況をこのコロナ禍の中、表したもののなのですが、上段が千葉県でご協力いただいた、赤血球の量でございまして、こちらは一単位換算でございまして、平成30年度は312,460人にご協力いただけましたけど、令和元年度は305,411人ということで、令和2年、3年は若干伸びてきてはいますけど、まだ平成30年度の状態には戻っていないというところでございまして。

下の折れ線グラフにつきましては、この三年間の献血の月ごとの献血の集まりをグラフにさせていただいたものですが、こちらは月によってこの三年間乱高下したというのをご覧いただければと思います。一番低いのが令和2年度の4月。こちらの方が一番影響的でありまして、緊急事態宣言が出る時出ないときにご協力にいただける数に差があったと思います。

一方で血液が不足している報道の中で、アスリートの方々がSNS呼び掛けていただけることもあって、また急激にご協力いただけるようになったり、令和2年度につきましては、最小から最大

の幅がだいぶあった年度でございました。ちなみに2月につきましては、どの年度も落ちているのですが、こちら日にちの関係で、一日800人くらい献血にご協力いただいているので、2月は他の月より2,000くらい少なくなりますのでこのようなグラフとなっていることをご承知をお願いいたします。

なお、新型コロナウイルス感染症にかかる献血の中止、こちらは元々予定していた献血がなくなってしまった件数なんですけど、令和元年度が50件、令和2年度が約500件、令和3年度につきましては約200件という形になり、今年度は6月までに2件、だいぶ少なくなってきてはいるのですが、今後も予断許さない状況にあるということで、ご承知していただければと思います。

皆様のおかげさまで患者様にお届けできていないという事態にはなっておりませんので、今後もこのような形をお願いできればと思いますし、企業様等々お願いできない分につきましては、市役所様をお願いしたり、駅前とかですね、あとは大型商業施設の回数を増やしてお願いしておりますので、患者様に今すぐお届けできないという事態ではございませんけれど、私共は千葉県内では一日に、献血者でいうと約800人分の、血液を毎日各医療機関様にお届けさせておりますので引き続きご協力、献血にご尽力いただければと思います。

また、今後第7波の中厳しい状況が予想されておるのですが、私共献血会場の中につきましては、感染防止対策としまして、検温、あるいはアルコール消毒、あるいはバスの中での遮蔽物の設置。そういった形で感染対策につきましては、安全を期しているところでございます。また一方で献血会場が密にならないように、ただいま献血の予約のお願いというものをさせていただいております、WEBから献血の予約ができる形となっております、ぜひご理解をいただきながら、お一人でも多くの方にご協力いただけますよう、皆様のお力をいただければと思います。簡単ですが以上でございます。よろしく申し上げます。

地引課長
(事務局)

田中様ありがとうございます。
委員の皆様何か質問がございましたらお願いします。

坂本委員
(富津市健康福祉部長)

今の説明の中で、年代別の献血状況で、若年層の方の献血が少ないというようなことを確認させていただきました。私が初めて献血したのは、高校生の時で、高校に献血車が来て、始めたのがきっかけでした。それ以降献血をさせていただいているのですが、今、天羽高校の先生も来ている中で、高校とか大学とかで定期的な献血というのが少なくなっている、あるいはなくなっている、そういった状況がこういった若年層が少ない要因となっているのですか。

田中事業課長
(赤十字血液センター)

まず、学校の献血ですけど、大学の献血に関しては、コロナでお伺いできないところもございますけれども、県内の大学様全校にお

願いさせていただいている状況でございます。高等学校様につきましては、一つには、16歳の方が400ml献血がお願いできないことがあり、2年生だけ、3年生だけのご協力となってしまうところもありますので、そういった形で全校生徒さんをお願いできない形になってしまうので、そこに向けてバスを配車しづらいところと、高校のカリキュラムで献血の時間を空けるようなことができにくいので、直接高校にバスを向かわせるケースは少なくなっているところでございます。以前に比べて高校での献血は少なくなっているところでございます。その分、私共は千葉県様が作ったパンフレットを学校の方へお配りしたり、若年層に向けての献血ルームへご案内とか、そういった形の中で十代の方には、献血の大切さを知って、大学に入ってから、あるいは高校卒業してから、ご協力いただけるように、日本赤十字社として検討させていただいているところで、また今年度中には新しいアプリも開発しているところでございます。若い方々が献血につながるような対策は取っているところでございます。

坂本部長

(富津市健康福祉部長)

ぜひ若い方の血液が多く集まればいいなと思いました。

地引課長
(事務局)

それでは、委員の皆様には、長時間にわたりまして、慎重審議、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

以上を持ちまして、令和4年度富津市献血推進協議会を閉会とさせていただきます。

お疲れ様でございました。